



いいたて村文化祭

36回目の開催となった文化祭。全村避難の間は、福島市内でも開催しました。毎年、村民の優れた手工芸品や芸術作品が出品され、ステージでは伝統芸能や文化サークルの発表が行われています。

いいたて秋まつり

27日には、会場の交流センター「ふれ愛館」の前庭で、「いいたて秋まつり」が同時開催されました。商工会がもちまきを行った他、団体・個人の協力による飲食コーナーも設けられ、家族連れなどでにぎわいました。



「秋のアルバム」は、いかがでしたか。子どもから高齢の方まで、本当にたくさんの方がキラリと輝いた秋でした。それぞれの想いが重なり、大きな力になるのだと、改めて気づかれます。この力を、次のステップへ。「つながる力」を世代を越えてつないでいきましょう。

手型が愛らしいことも園0歳児の作品から、89歳の木幡さんの洗練された秀作まで、文化祭の「総合文化展」には、多様な年代の多彩な作品が並びました。どの作品にも、作り手の「手」のあたたかさが感じられ、飯館村のよさがあふれていました。ステージにも、文化祭を盛り上げようと、団体・個人が出演し、日頃の取り組みの成果を披露しました。小学生の「沖縄までの旅」、中学生らの「未来への翼・北欧研修」の報告会も行われ、それぞれの言葉で旅の実りが語られました。

つながっていい 前を向いて

木幡英子さん（草野）
「シャドーボックス」を
出品し村長賞を受賞



精巧な作品、シャンとしたお姿からは信じ難いのですが、現在89歳。1月には90歳を迎えるそうです。

シャドーボックスは2年程続けています。切り絵や折り紙、縫い物やレース編みなども好きですね。少しも飽きません。嫁ぎ先で家業に励んでいた頃は、夜に家族の縫い物や編み物をしていました。今は手先を使うことで、できるだけ健康でいたいと思っています。

コピーした図柄を丁寧にカットする繊細な作業。これを6枚から10枚程度重ねて奥行きを表現します。



製作中の作品



いいたて村 文化祭& いいたて秋まつり

age 出品は
0歳から89歳

第36回「いいたて村文化祭」は、「ともに広げよういいたての和」をテーマに掲げ、10月26・27日に開催されました。中学校体育館を会場にした「総合文化展」には、各種団体・個人の作品、子ども園・小学校・中学校などの作品が並び、多くの人が鑑賞しました。多彩なステージ発表は27日に交流センター「ふれ愛館」で行われました。